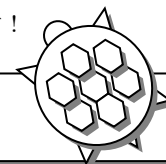


亀さん通信

花見の季節になりましたが、いかがお過ごしでしょうか！

亀のように歩みは遅くとも、『お金力』をしっかり・確実に身に付けていただく【亀さん通信】第 138 号発信です！



未来はすでに起きている！

生きていくためにはお金が必要です。どれだけの金額が必要なのかはそれぞれとしても、特段の異論はないでしょう。そして大半の方が働くこと、即ち仕事によってお金を得ています。今回は、生活の柱である**仕事の未来**について考えてみましょう！

今月、衝撃的なニュースが飛び込んできました。世界で最も強い棋士の一人である韓国の李九段と Google 傘下の企業が開発した人工知能「アルファ碁」の五番勝負。その結果は、大方の予想を覆し、**4勝1敗でアルファ碁が勝利**。囲碁は盤のサイズが大きい（19×19）こともあって計算上あり得る手の数が多く、コンピュータがプロ棋士に勝つまでには、あと 10 年ほどかかるのではないかと言われていました。この結果は、一体何を意味するのか。それは、私達の想定以上に**コンピュータが進歩している**ということです。そしてこのニュースを目にして思い出したのが、数年前に発表されたある論文です。

【今後 10～20 年程度で米国の総雇用者の約 47%の仕事が機械に奪われる】

そんな衝撃的な論文を執筆したのは、英オックスフォード大学で人工知能などを研究するオズボーン氏。同論文の凄みは、米国労働省のデータに基づく 702 の職種すべてについて詳細に試算したことです。同様の手法を用いて、野村総合研究所は昨年 12 月に日本における試算結果を発表し、**10～20 年後には日本の労働人口の約 49%が人工知能などで代替される可能性が高い**と推計。事務員やスーパーの店員など多くの職業が取って代わられると指摘しています。野村総合研究所が試算した人口知能やロボット等による代替可能性が高い職業や低い職業の詳細は次のウェブサイトをご参照ください。【http://www.nri.com/Home/jp/news/2015/151202_1.aspx】

製造や販売の現場作業など、必ずしも特別な知識・スキルが求められない職業、データの分析や秩序的・体系的操作が求められる職業は代替可能性が高い傾向にある一方、抽象的な概念の知識や他者の理解、交渉などが必要な職業は代替が難しい傾向にあるそうです。とはいえ、弁護士のような法律相談、医師のような症状診断も遠からず、多くの部分をコンピュータが担えるようになるでしょう。つまり**現在「知的」とされている職業に大きな変化が訪れる**ということ。実際に米国のがんセンターでは、コンピュータが患者個々の症状などを他の患者と比較することで、それぞれに合った最良の治療計画を作成することに成功しているようです。またウェブ上に顧客が情報を入力するだけで、コンピュータのファイナンシャルプランナー（以下、FP）が顧客それぞれに合った資産運用アドバイスを行うサービスもスタートし、人気を博しているとのこと。FP である私にとっても頭が痛い話です…

「近い将来、10 人中 9 人は今とは違う仕事をしているだろう」 ～ラリー・ページ（Google の共同創業者）～

「創造性を必要としない仕事はすべてテクノロジーに代行される」 ～ビル・ゲイツ（マイクロソフトの創業者）～

マネジメントの父と呼ばれるピーター・ドラッカーは未来をつくるアプローチを「**すでに起こった未来を利用する**」と表現しました。もし未来に起きることがすでに分かっているとすれば、常に先手を打つことで、ビジネスや人生をとっても有利に展開できるでしょう。そしてドラッカー曰く、その未来は「**すでに起きている**」のです。何が言いたいのかは、もうお分かりだと思います。トップ棋士の敗北というすでに起こった未来。このように未来はもう起きているのだから、あとは**その波に乗っていけばいいだけ**の話。未来に逆行する人生は辛いものです。それ故、今何を行うべきかについて考える時間を、一度立ち止まって確保することはとても大切です。来るべき未来に仕事でお金を得て、そして生活していくために、個人として、あるいは家族として、**どう対応すればいいのか**を考えておくことは、時代の変り目である今だからこそ求められるのではないのでしょうか。

桜を見るとの寂しくなるのは私だけでしょうか？

（株）亀山保険事務所 亀山裕弘（㊿北㊿） 1 級ファイナンシャル・プランニング 技能士 0575-28-2768 info@kameyama-hoken.com